

平成24年度（第6期事業年度）決算の概要について

平成25年9月17日

北海道公立大学法人 札幌医科大学

1 はじめに

本学は、平成19年4月に地方独立行政法人法に基づく公立大学法人となり、今回、第6期目の財務諸表について平成25年9月3日付けで、設置者である北海道知事の承認を受けました。

この財務諸表は、企業会計原則を基本にしつつ、公立大学法人特有の会計制度を加味した「地方独立行政法人会計基準」に基づき作成したものであり、本学の財政状況と運営状況を示すものであります。

(注) 財務諸表は、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書、利益の処分に関する書類、行政サービス実施コスト計算書及び附属明細書で構成しています。

2 財務諸表の概要について

(1) 財政状況

平成25年3月31日現在における本学の財政状況は、次のとおりです。

(資産)

資産の合計額は、約508億2千万円（対前期7億1千万円増）で、うち、土地、建物、工具器具備品等の固定資産が約422億9千万円、現金及び預金等の流動資産が約85億3千万円です。

(負債)

負債の合計額は、約122億4千万円（対前期2億5千万円減）で、うち、資産見返負債、長期借入金等の固定負債が約57億7千万円、未払金等の流動負債が約64億7千万円です。

(純資産)

純資産の合計額は、約385億7千万円（対前期9億7千万円増）で、うち、北海道からの出資金である資本金が約345億8千万円、利益剰余金が約47億6千万円です。

(2) 運営状況

平成24年度における本学の運営状況は、次のとおりです。

(費用)

経常費用は、約299億2千万円で、主なものとして教育研究費等が約23億8千万円、診療経費が約123億円、人件費が約144億7千万円です。

診療経費については、対前期3億3千万円増となっていますが、患者数の増加により医薬材料費や委託費用等が増加したこと及び減価償却費などの設備関係経費が増加したことによるものです。

人件費は、退職者減に伴う退職手当支給額の減少などにより、対前期 2 千万円減となっています。

(収益)

経常収益は、約 3 0 8 億 4 千万円で、主なものとして、北海道から交付された運営費交付金収益が約 6 0 億 3 千万円、授業料等収益が約 8 億 3 千万円、附属病院診療等収益が約 2 1 9 億円です。

(損益)

経常収益から経常費用を差し引いた経常利益は、約 9 億 2 千万円（対前期 1 億 8 千万円増）です。

経常利益については、前年度よりも入院患者数が増えたことや診療単価が増となったことから、附属病院収益が増加したことにより、対前期と比べて増加しています。

なお、受託研究費など外部資金の獲得により、教育研究経費の財源の確保についても、引き続き努めているところです。

(総利益)

当期総利益は、約 1 6 億 9 千万円と、対前期 8 億 4 千万円の大幅増となっていますが、これは中期目標期間最終年度特有の会計処理として、法人化以降繰り越してきた運営費交付金債務約 5 億 9 千万円を臨時収益として計上したことなどによるものです。

(3) 利益処分

本年度は、中期目標期間の最終年度となることから、当期総利益及び目的積立金残額を積立金として整理するとともに、積立金総額約 4 7 億 6 千万円のうち、約 3 8 億 9 千万円について、次期中期計画に定めた用途に充てるための積立金として、北海道知事からの承認を受けています。

3 おわりに

今後も、北海道から交付される運営費交付金は毎年減額される見込みとなっており、依然として厳しい財務運営が予想されます。このような厳しい環境ではありますが、教育・研究・診療活動の充実・発展のため、より一層の経営努力を行い、財務内容の改善・充実に努めて参りますので、今後ともご支援とご理解を賜りますようお願いいたします。